金木だより

発行所　金木町役場
印刷所　東奥日報社印刷局
金木だよりは毎月一回発行になります。部数の都合上どうぞ回覧して見て下さい

十二月十日までに町税の滞納整理

納税貯蓄組合設立の運動推進

過去三カ年に亘る赤字の町財政の運営は町税の滞納とともに悩みの種となつていることは『金木だより』でたびたびお知らせ致しましたが、町当局ではこの難関を突破すべく左記要領で町税の滞納を整理するとともに『納税貯蓄組合』の設立推進運動を展開することになりましたから御協力下さるようお願い申上げます

☆方　針

町税滞納を整理し、町財政の安定と納税思想の昂揚を図る。

☆実施要領

1、期間　十一月八日から十五日まで。

2、役場吏員全員を以て特別班を編成し、一斉徴税を期間中三回以上行う。

徴税係は期間中毎日重点的に徴税の任にあたる。

なお臨時に徴税対策本部（部長白川助役）を設置

3、『納税』と『貯蓄』に関しての標語、図画、習字、綴方等の作品を各学校から募集し、優秀作品を発表する。

4、町議会及び各種団体に協力を求める。

附記

1、今期間中に過年度及び二十七年度分の町税滞納の整理をする

2、期間中に納入しない者に対しては法的処分をする。

3、なお滞納金に対する延滞金は左記の通り徴収されます。

（イ）二十四年度分については滞納税金百円につき百日分で一三円

（ロ）二十五年度分については滞納金百円につき百日分で五十五円四十銭

（ハ）二十六年度の分については滞納金百円につき百日分で二十六円二十銭

【註】延滞金の率は二十四年度分より二十五年八月末日までの分については日歩二十銭、二十五年九月一日以降は日歩四銭となつております。なお町税收入見込み及び滞納整理計画は別表の通りです。

町教委に選任されて

田中勇吉

十月二十七日の町議会において議員代表として金木町教育委員に選任されその任の重且つ大なるを痛感致して居る次第であります。

私はかねてから『町の振興は子弟教育』にありこれがためには教育が不当な支配をうけることなく、地域社会の実情に即した教育行政が行わなければならないと考えて参りました。しかしながら斯く申します私が果して其の任を全うし得るか否か解りませんけれど選任されました以上は粉骨砕心立法精神に則り飽くまでも町教育振興につくしたいと考えております故、今後共何卒よろしく御指導御鞭助を賜わりたく本紙を拝借しまして一言御挨拶を申上げる次第であります。

議会報告

（十月二十七日）

一、専決処分報告について

1、金木町公職選挙の候補者の演説会施設公営費及び施設使用料条例設置について（原案可決）

2、金木町起債及び償還方法について（原案可決）

自動車ポンプ購入費として一金百万円（年六分五厘）を大蔵省資金運用部より借用、これを昭和三十二年度から昭和四十二年度の十一年間に償還するものである。

3、短期資金借入について（原案可決）

自動車ポンプ購入費一金百万円を長期債にて十一カ年間で償還することで借りるのであるがその前に現金が必要なので最取敢ず一時短期資金（日歩一銭八厘）として前借りするものである。

4、貯水池新設工事について（原案可決）

芦野公園清水橋のところに中学校用防火貯水池を新設しこれを請負者野宮平助氏に一金八万円で請負完成した。

5、五所川原土木事務所金木派出所自動車々車敷地として町有地貸付について（原案可決）

登記所土蔵裏八坪を土木派出所車車敷地として無償貸付けすることにした。

一、金木町議会定例会条例廃止について（原案可決）

議会定例会は年六回であつたものを廃止して明年からは年四回に別に規則で定めた。（昭和二十七年九月一日地方自治法の改正による）

一、金木町職員等旅費に関する条例中一部改正について（原案可決）

旅費の一部増額条例である。

一、消防に協力援助した者の災害給付に関する条例設定について（原案可決）

消防作業に一般町民が協力して災害に会つた際には、これに治療その他種々の給付をなす条例である。

一、組合立学校規約変更について（原案可決）

昭和二十七年十月一日から組合立学校が高等学校に昇格になつたのでそれに伴う規則の変更である。

一、組合立金木高等学校教育委員推薦について（原案可決）

町議中村健司氏満場の同意を得て推薦された。

一、金木町教育委員会委員選挙について

町議田中勇吉氏当選す。

一、金木町公平委員会委員推薦について（原案可決）

福士勇氏教育委員就任により欠員として金木町高橋儀一郎氏が満場の同意を得て推薦された。

一、昭和二十七年度金木町歳入歳出追加更正予算について（原案可決）

既決予算額二三、五九五、九三〇円に対して追加更正予算額五二二八、〇〇〇円で一八、四六七、九三〇円の予算額となつた

一、寄附採納について（原案可決）

金木町秋元正衛氏より金木中学校備品として木製寝台枠一個が寄附されたものを採納した。

教育委員会

（十一月一日）

一、委員長選任について

委員長福士勇氏選任さる

一、副委員長選任について

副委員長荒関豊七氏選任さる

一、金木町教育委員会々議規則について（原案可決）

一、金木町教育委員会傍聴人規則について（原案可決）

一、金木町教育委員会公告式規則について（原案可決）

供米の割当減量陳情

当町外十一カ町村で

去る十月八日金木町長を代表として北郡十一カ町村長及び各町村農業委員会委員長が本年度産米供出割当について知事、経済部長、農政課長及び農務課長を訪問、稲作の播種期以後の天候不順による予想以上の被害状況を述べ、その資料を提出するとともに割当の減量方を陳情した。

財政事情説明書（其ノ三）

昭和二十七年六月三十日

金木町長　花田一

▼議会費　総額八三五、〇四九円を各項別に述べればつぎの通りです

議員報酬の他町村との比較検討による増額と、新たに議員調査研究費を研修費として一一〇、〇〇〇円、更に議会常任委員会諸手当の新規計上等により、他において極力支出の節減に努めましたが、前年度に比して三六〇、四一九円の増額をみました。

町議会費	七三八、六八五円
議会常任委員費	五四、〇〇〇円
諸費	四二、三六四円

▼産業経済費　町勢の発展と産業の振興とは不可分の問題であつて殊に当町は総人口の六五％は生産人口であり、その中七五％は農家人口である関係上、農業行政機関である農業委員会および諸産業の企画行政機関であるところの商工会等との緊密なる連繋こそは当町振興の鍵であると考え本年度の産業経済費を前年度に比較して二七三、九三六円を増額計上しました

産業経済費の内訳は次の通りです

委員報酬	一二一、三〇〇円
職員給	三四八、六〇〇円
旅費	三〇、〇〇〇円
諸手当	一五〇、八四五円
研修費	四〇、〇〇〇円
需用費	七三、六〇〇円
負担金	一〇、〇〇〇円
商工振興費	三〇、〇〇〇円
計	八〇四、二四五円

▼消防費　消防費予算については消防本来の性質上殊に現下における社会情勢からみて、施設を完備しなければならぬことはいうまでもありませんが、町財政上経常的予算の編成をみた次第です。

然しながら本年度において必然的に整備を要する支出面については追加予算により善処する意図でありますから御了承願います。

以下各項目別に述べればつぎのようになります。

諸手当	二一〇、七〇〇円
旅費	一〇、〇〇〇円
需要費	四二三、〇〇〇円
負担金補助及び交付金	七四、六二五円
研修費	一〇、〇〇〇円
維持修繕費	六五、〇〇〇円
計	七九三、三二五円

▼土木費　道路橋梁の整備は産業促進の基礎となるもので、これが整備補強には前年度も極力意を用いて参つたのでありますが、巨額の経費を要する工事はなんとしても国及び県費に依存するのほかなく、本年度は道路維持修繕費として二〇〇、〇〇〇円、施設費（グランド改修費）として一五〇、〇〇〇円、街路費として一〇〇、〇〇〇円、計四五八、〇〇〇円を計上いたしました。

▼保健衛生費　罹病率の高いしかも恐るべき結核の予防対策については国を挙げて撲滅運動を展開しており、当町においても幸い県当局より結核予防対策指定地として指定されている関係上、これが予防対策には万全を期すると共に、日常生活に最も関連のある環境衛生面についても一般の認識を喚起する考えでつぎのような予算を計上しました。

伝染病予防費	一九八、三四五円
結核予防費	五〇、〇〇〇円
隔離病舎費	二三、〇〇〇円
火葬場費	三八、四〇〇円
計	三〇八、七四五円

▼財産費　これは町有財産の維持管理に要する費用であつて次のようになつています。

基本財産費	
イ、部分林手入費	二〇、〇〇〇円
ロ、積立金	二八〇円
財産管理費	
イ、需用費保険金及び営繕費	二五九、三三六円
ロ、負担金	二八〇円
計	二七九、六三六円

▼諸支出費　主なるものは各種負担金であつて、この額は一三九、五〇〇円となつています。

▼地方振興費

行政諮問委員会費	
諸費	一八、〇〇〇円
イ、納税組合助成金	一二五、〇〇〇円
ロ、普及会議習演講会費	一〇〇、〇〇〇円
ハ、功労者表彰費	二〇、〇〇〇円
	五、〇〇〇円

▼統計調査費　五四、〇〇〇円

▼選挙費　五二、九〇〇円

▼予備費　二四四、九一三円

歳出予算についての説明は以上の通りで総額は二一、二九五、九三〇円となりました。

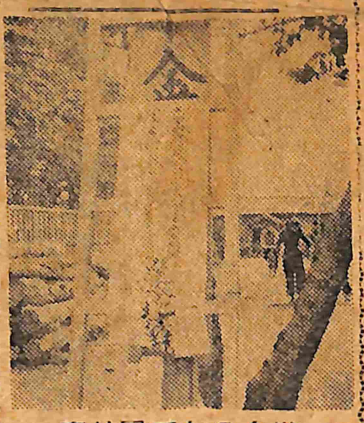
別表　町税收入見込及び滞納整理計画

1. 本年度町税調定見込額　8,055,000円
2. 過年度滞納額（9月30日現在）　2,722,000円
3. 本年度滞納額（9月30日現在）　2,748,000円

4. 收入見込及び滞納整理月別予定表

月別	11月分			12月分			1月分			2月分			3月分		
区分	收入見込	滞納整理目標	計	收入見込	滞納整理目標	計	收入見込	滞納整理目標	計	收入見込	滞納整理目標	計	收入見込	滞納整理目標	計
町民税	34,6600	400,000	746,600	250,125	464,000	716,125	547,700		547,700	230,100		230,100	425,000		425,000
固定資産税		350,000	350,000	200,000	330,000	530,000	500,000	57,000	557,000	336,000		336,000	573,100		573,100
自転車税		20,000	20,000		50,000	50,000		40,000	40,000		20,000	20,000		20,000	20,000
荷車税		20,000	20,000		20,000	20,000		20,000	20,000		20,000	20,000		20,000	20,000
電気ガス税	38,000		38,000	42,000		42,000	52,000		52,000	55,000		55,000	53,000		53,000
木材引取税															
広告税								1,000	1,000		1,000	1,000		1,000	1,000
接客人税					1,000	1,000		1,000	1,000		1,000	1,000		1,000	1,000
滞納繰越分		500,000	500,000		700,000	700,000		700,000	700,000		400,000	400,000		322,000	322,000
小計	384,600	1,290,000	1,674,600	494,125	1,565,000	2,059,125	1,099,700	819,000	1,918,700	621,100	442,000	1,063,100	1,051,100	364,000	1,415,100
地方財政平衡交付金										1,000,000		1,000,000			
税外收入															
使用料	17,000		17,000	19,000		19,000	10,000		10,000	12,000		12,000	15,000		15,000
手数料	4,000		4,000	10,000		10,000	15,000		15,000	7,000		7,000	18,000		18,000
小計	21,000		21,000	29,000		29,000	25,000		25,000	1,019,000		1,019,000	32,000		32,000
合計	405,600	1,290,000	1,695,600	523,125	1,565,000	2,088,125	1,124,700	819,000	1,943,700	1,640,100	442,000	2,082,100	1,083,100	364,000	1,447,100

「顔横の町が蘇る」



変り果てた公会堂

現在保育所として使用されていますが、それもお写眞を御覽になればお解りになると思いますが時々こんな紙が貼られます。

『時代遅れの町』といわれるわが町もこんなところにあるのではないでしょうか？。

やはりなんと申してもわれわれの『公会堂』か『公民館』がほしいものです。（R生）

【註】町財政が豐かになり保育所の新築が実現され、よき『人』が得られるようになれば一日も早く『公民館』を建てたいと思っています。（町長）

太宰治氏の思い出

―新劇上演『郭公』にこと寄せて―

鳴海和夫

わが金木町の生んだ唯一の作家太宰治氏は、その作品である『ロマネスク』とか『人間失格』『思ひ出』『津軽』などの中で、金木や郷土津軽について何程か触れてはいるけれども、小説的潤色もあって真実そのままではないだろうと想像されます。然し何いつても『津軽』の中では、津軽人である太宰氏が、自分も含めての津軽人の特質を冷静に客観視して津軽人らしい津軽人の典型を描出しているのはさすがであると思います。

さて、昭和三年頃、太宰氏が弘前の高等学校生徒時代のこと、夏休みに帰郷された時、小学校の同窓会があって、その余興に劇を上演したことがあります。場所は金木劇場でした。

太宰氏は、田舎の町でその頃何処でも行われていたに違いない新派劇まがいの悲劇や紋切型の勧善懲悪劇にはホトホト憂想をつかしていたと見え、その頃東京でも最も新しかった築地小劇場風の新劇を上演する意見です。脚本も飜訳劇の『郭公』ときめました。『郭公』の内容は、西洋の田舎に住む老夫婦の物語です。夫は長い病気で床についております。夫の最後の願いは今年の郭公の初音を聞いてから死にたいということです。そして愈々死期が迫って来ます。妻は夫を愛する心から、庭に出て郭公の鳴声を眞似ます。夫はその声を聞きながら満足してあの世に旅立つて行く―こうした筋です。主役の老夫婦には太宰氏兄弟（末弟礼治さんと二人）が扮し、その他町の有志が助演しました。

太宰氏はこの劇の上演に当つて本格的な稽古を始め、主演から演出装置、プロンプターまで、すべて受もつて大活躍をされました。まあ一人で劇を上演された様なものです。上演当日は大へんな人気で満員の盛況でした。しかし当時の町の人々にとつては、こうした劇は初めてのことであり、難しいという感想を聞きましたから、盛況であつたけれども完全な成功ではなかつたかも知れません。けれども、とにかく一同寒会が町の劇場を借りて堂々たる公演をしたことや、昭和の初年頃わが金木町で東京でも新しかつた築地風の新劇を上演したことや、その主導者が太宰治氏であつたことなどを考えると、これは金木文化の上に大きい意義をもつものと考えます。

文化の日を迎えて

金木町長　花田一

『文化日』……

なんとなく〃いそがしい〃日のように思われて仕方がない。

私の生活そのものが〃いそがしい〃からそう感ずるのではなかろうか？

静かにゆつたりとした〃一とき〃がほしい。これが私の偽りのない気持なのだ。

『政治』『経済』『文化』

この三つ並べてみれば『文化』という字がなんとなく穏選いような気がしてならない。

私が生れ、そして育つたこの町、この私達の町は〃文化が遅れている〃とよくいわれる。

私は今その町の首長なのだ。

『政治』『経済』『文化』は不可分なものだという。そしてみれば首長である私も『文化遅れ』の部類に入り、しかも町の政治、経済も、ということになりそうだ。

私は『金木町号』という〃汽車〃を走らせようとして路盤工事を始めてから断に一年有余は過ぎたけれど、計画通りにはなかなかゆかぬもの。それ故に『遅れている』というようにいわれるのではなかろうか。

だが私は私の四年の任期中には必らず『金木町号』にお客さんを一ぱい乗せて開通式をやりたいと思つている。

『いそがしい』私の『文化の日』〃いそがしい〃私の『生活』そして『さわがしい』私の『政治』しかしながら私は町のため、また私のためにもこれ等のことは決して避けはしないけれど、すべてのことをもつと落着いて『われ等の町』を『文化の町』として築きあげてゆきたいと考えている。

基本法の前文にあるように『真理と平和を希求する人間の育成を期する』というのが崇高な今日のすべての学校の一貫した教育目標であることは論をまたない。従つてこのような目標をめざしていとなまれる教育は文字通り厳粛な社会機能の一つである。

凡そ人間の知恵と労働所産による貪い文化の遺産を更に存続発展せしめるその根源を培うものは教育に期待する以外にない。即ち青少年に自己の能力についての自信をあらゆる機会を提供することによつて与え、学問や技術の土台をしつかりと身につけさせなければならない。眞理の追求には何物にも屈しないという科学的態度を育成することが肝要である。

次に平和を希求する人間の育成には何よりも家庭の平和、社会の平和を目の前に見せその環境の経験によつて育てる外ない。平和は一片の空論でなく自他の幸福と結びついた人間生活究極の目標であることが心から理解される心情がまず青少年に養われなければならない。

教育は決して従来のような所謂えらい人間をめざすのでなく、あくまでも眞理と平和を希求するよき市民をつくることである。

今日の佳き日『文化の日』を迎えて国民こぞつて青少年の教育について再考してみたいものである。歴史をつくるものは結局人間であることを銘記したい。

金木高等学校長　中谷洲男

私の見た金木町？

底の浅い見栄坊の町

太宰治氏は生粋の津軽人であるとともに単にそれだけに止らない一面もまた有して居つたことの一つの証明ではないかと今さらながらこの思い出を新しく追憶するのであります。（筆者　金木高校教諭）

或るとし（昭和十九年）の春、私は、生れてはじめて本州北端、津軽半島を凡そ三週間はどかけて一周したのであるが、私の三十幾年の生涯において、かなり重要な事件の一つであつた。私は津軽に生れ、そうして二十年間、津軽において育ちながら、金木、五所川原、青森、弘前、浅虫、大鰐、それだけの町をみただけで、その他の町村については少しも知るところが無かつたのである。金木は私の生れた町である。津軽平野のほぼ中央に位し、人口五、六千（昭和十九年当時）の、これという特徴もないが、どこやら都会ふうにちよつと気取つた町である。善くいえば、氷のように淡白であり、悪くいえば底の浅い見栄坊の町ということになつているようである（太宰治全集第十巻『津軽』の序編より）

町民の声

農村に於ける冠婚葬祭について

戦時中の農村好景気時代の豪華な風習が抜け切れず、農村人のだれもが、これではならぬ、何とかせねばとの革新的意向を持ちつつもこれまでの交際とか、行きがかりで容易に脱皮でき得ぬ現状にあるという見方が必ずしもはなからうかしたがつて昔と今とを比較した場合、現在農村（果して農村のみか頗る疑問ではあるが）における冠婚葬祭は、ぐつと派手になつたということができよう。これを反面から考えれば、財的な裏付があつて各自が分相応にやつているのであるから、第三者が云々しようとするのは、いらぬ干渉だともいえると思うが、しかし現在の農家の忙しさ、労働の過重は何とか解決できぬものだろうかとつくづく考えさせられる。冠婚葬祭を簡素化し、その費用で農村の機械化、合理化をはかり、もつと余裕のある文化的な明るいホームを実現したら、老人も夫も妻も子供も家内中どんなに幸福だろうかと考えられる。

今後の農村生活も全面的、国際的なつながりを持ち、もはや他よりの社会的、経済的な影響から孤立し得なくなり、前途には宿命的な耕地の稀少性、労働の過剰、零細農経営などの難問が横たわっている。

従来婦人会その他各種団体が、冠婚葬祭の簡素化運動を叫びつつも、今もつて改め得ないのは何故か。この点をよく反省してみなければならぬと思う。さて今冠婚葬祭をやる当人になつてみた場合に革新的な意見を持つていても実行に移すとなれば、社会人としてなみなみならぬ辛さがあるからであろうと考えられる。こういうことを考えた時、卑怯なようではあるが、県で一定の冠婚葬祭のメドを決めて我々に公布してもらいないものだろうかと思う。村とか町とかで申し合せしてみても、たとえば村の中から村へのお嫁入りでない限り実行不可能なことである。嫁入り仕度の豪華さよりも、明るい理智の心の豪華さをもつて結ばれる青年男女であつて欲しいとあわせて望む次第である。（時田・葛西生）

回答は次号でします。

〃菊の会〃の思い出

鳴海ちよ

金木町という所は以前には大書趣味家が多うございまして書画、囲碁、お花などいろいろの愛好家の往来は度々ありましたが、金木町の菊花の同好者が集つて『金木菊花会』を組織いたしましたのは多分昭和十三年ごろと記憶しております。

亡夫祐清は花好きで明治四十四年金木町（当時村）に参りましてからずつと菊花いじりをいたしておりました。当時は大輪菊が流行と見えまして私宅も大輪菊だけでございました。昭和七、八年ごろから弘前の中村範さんや花田月松さんなどの御指導でやがて懸崖造りに転向いたしましたが菊花会の誕生はこうした時期に行われました当時の会員の皆さんは大変御熱心にやつておられまして会員には西村廣次郎、三上正通、高橋司馬蔵、福士貫一、中村勇次郎、瀬尾一郎、佐々木教岑、角田又七、大橋梅吉、長内武男、長尾繁三郎、角田亮吉、津島豊吉、田中柳太郎、菊池朝五郎の諸氏がお出でのようでしたがほかに重要なお方を書き洩らしているかも知れません。

菊花会は年々盛会になり五所川原町の晩香会や弘前までも遠征出品いたして優秀の成績を示しましたがそのうち懸崖造りはすたれて盆栽造りが流行して参りました。亡夫が生前自慢にいたしておりましたのは昭和十三年頃か、弘前新聞社主催で行われた県下第二回菊花展覧会に優等並びに賞等を得てカップを受領したことと、その後秩父宮殿下に菊花を献上いたしましたことでありました。こうした事が刺激になつて次第に金木菊花会は盛んになり、毎年この月には展覧会を催しいたしましたが太平洋戦争突入と共に何時の間にか花なと作る人もなくなりいつともなく会も解散して終いました。この間終始菊を育てて休まなかつたのは多分西村さん位ではないかと思います。最近また、菊の愛好熱が再び盛り上り前記西村さんを中心に同好会が相集りまして会を組織し御活躍のことと承つております。風流なこの会の益々の御発展をお祈りして思い出の筆をおきます。

お茶とお花

秀松齊　田中一昊

私が『お茶』と『お花』を始めたのは二十六、七年も前のことで、その頃はよく『お茶』は形式にこだわつたもの、日常生活には凡そ縁のないもの、そして有閑人のやることというふうに考えていた人が多かつたせいか、極く一部の方がやつておられ、今のようにこんなに盛んではありませんでした。

習在私の所では花道は浅草流州流風会金木支部、お茶は小堀遠州金木支部となつており、お嫁入前の方、学校の先生、生徒方（女の方のみです）がお忙しい日々の中から御熱心に通われておりますがやはり眞の趣味の道ということを難かしく考えていられるようです家元の宗慶先生の言に『お茶とは何んですか』と問われた際に『お茶とは私です。私を見て下さい』と即座に答えられるよう『常の心構えに注意するように』とありますが、ほんとうに味のある言葉だと思います。

金木カメラクラブ

会長　白川常守

名誉会長に三浦敬三氏を戴き会員が約十五名位居り現在活動しておりますがなんといつても『お金』がかかりますから……

経済的に許されるならば技術的なことは別として『我が人生のアルバム』をお作りになるのも楽しいものです。（談）

金木町役場職員組合総会開く

（十月二十五日）

役員改選の結果つぎの通り決定した。

組合長　西沢小市郎
副組合長　伊丸岡勘二
執行委員　工藤勇義
　　田中実
　　高橋英雄
　　大橋隆次
書記　田中良石衛門

金木小学校長　鰐田惣四郎

今年もまた『文化の日』を迎える時節になつた。

十一月三日、敗戦前は『菊薫る日』と称して、国を挙げて明治天皇の御聖徳を偲び讃えた『明治節』の日である。徳川三百年の鎖国によつて、遅れた日本文化を世界水準に引き揚げるために『知識を世界に求め』させ、しかもそれを成し遂げさせられた明治天皇の御偉業は、敗戦によつて一朝にして世界の劣等国に蹴落された日本とはいえ、なお且つ世界史上に一光輝を放つていることに変りがない。

敗戦によつて『戦争』という人世の一大悲惨事の心おこされる迷夢から覚めたわが国は、世界の諸国に魁げて戦争を抛棄することを全国民の意志として掲げ、その進路として新らしく平和な文化国家を建設し世界の文化に多少なりとも貢献しようとして、昭和二十三年法律第百七十八号をもつて、『国民の祝日に関する法律』制定に当りこの忘れ得ない記念の日即ち十一月三日を『文化の日』としたのであることは誰しも知つているところである。

爾来国民は挙げてその趣旨に沿い国家再建に努力を続け、特にこの日には各種の文化的行事がくりひろげられて今年はその第五回目に当つている。芸術祭、芸能祭、美術祭、体育祭等々皆それにほかならない。

殊に今年は、一部とはいえ講和発効により独立した第一年目のこの日である。また、文化の推進母体をなしている教育の行政機構に一大変革があり十一月一日を期して地方教育委員会（市町村教育委員会）が全国一斉に発足することになつた。これに対する世評はどうあろうとも、この現実態が今後如何に日本の教育を推進し、どこまで日本文化を高揚せしめていくかが今後に残された一大問題であろうことに疑いはない。

われわれは注意深く世の推移に副目し沈思默考よくその去就にまどわず、言動を慎しみ、日本文化史上に汚点を留めぬよう努力すべきであると信ずる。

早場米の一番乗りは
十月六日に荒井・白川両氏

稲刈りの最盛期に入り天候がくずれ出し例年より稍遅れたが去る十月六日（月）には湯の川農荒井和蔵氏（四八）が十俵（藤坂五号および農林一号共に規格外）沢部白川豊三郎氏（六六）が五俵（北海道早生で四等米）を夫々早場米として供出した。

【写真、荒井氏夫妻に右側丸は白川氏】

※　※　※

年内に完納成るか

昭和二十七年度産米の市町村に対する割当が去る十月三十日に決定された。当町は昨年から見て一、〇六七石減量の六、三四五石を割当されたのであるが、昨年度は年内完納をしたが本年度も年内に完納出来るか否かを青森県食糧事務所金木支所及び取扱業者にお伺いしてみたところ、つぎのような頼もしいお答えをしてくれた。

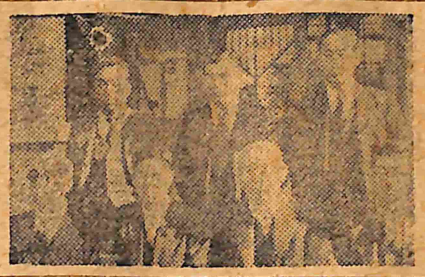
本年度の早場米の供出状況は十一月三日現在で五、一三三俵となつており昨年十月三十一日現在の四、九三三俵に比し二九九俵多くの供出となつている。なお今年は一般に生産者が自覚めており、この分だと十一月末には八割、年内には完納ということになるのではないかと思つております。

冠婚葬祭の簡素化に協力を

十月十日の北津軽郡町村会の例会において冠婚葬祭の簡素化実施が決議事項として取りあげられたが、当金木町においても右の決議に基いて町民各位の自覚による協力を切に望んでいる。

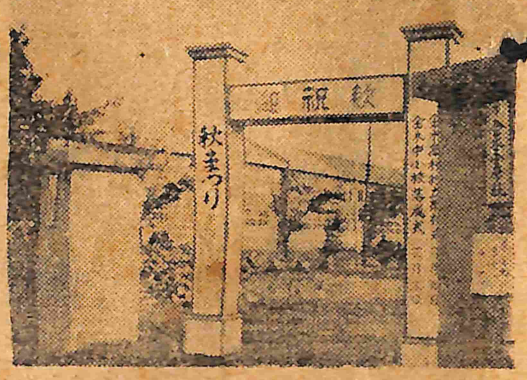
なお本広報と同時に、これに対するパンフレットを配付するが、各御家庭における多くの協賛がある場合には改めて当町としての具体案を検討する予定である。

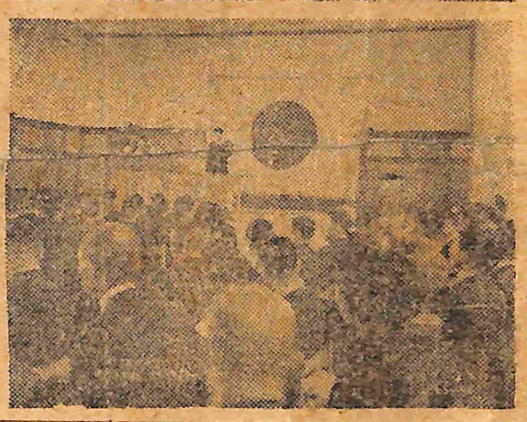
秋まつり終る



去る一日から金木小学校において農産物品評会、商工バザー、作品展覧会、演劇等、大竹菓子店では菊花展覧会を開くなど色々な催しものをくりひろげられていたが、去る日、新しく誕生した初の教育委員会委員に当選及び推薦されてお祝りの委員と教育長及び町長の諸氏

小・中学校の落成式
—文化の日をトして—





今日三日『文化の日』には小学校講堂及び中学校第二期工事の竣工式を挙行引続き農産物品評会の賞品授与式が行われるが『秋まつり』も盛大裡に幕を閉じた。

写真㊤—秋祭り会場入口のアーチ

『秋まつり』の最終日である『文化の日』には小学校講堂及び中学校第二期工事の修祓式後落成式を小学校講堂で挙行。町長の式辞、白川学校建築委員長の工事報告、感謝状贈呈、津島知事、県教育委員長、金木高校長の来賓祝辞、ついで各関係学校長の答詞があつて式を閉じた。感謝状を贈呈された者は次の通り

小学校請負業者　津島　多七
中学校請負業者　佐藤　勝郎（故人）

今月のあとレ

十月　一日　衆議院議員及び最高裁判官国民審査の投票日。
　　十一日　選挙管理委員会
　　五日　県町教育委員会委員選挙
　　十一日　保育所運営委員会
　　十三日　農業委員会
　　十月　五日　消防団長会議
　　十六日　消防自動車ポンプ艤装完成青森より陸送
　　十七日　消防自動車ポンプ修祓式
　　自十九日至二十日　郡中学校綜合体育大会
　　二十七日　定例町議会
　　三十日　金木高等学校独立開校式
　　十一月自一日至三日　秋まつり
　　小学校講堂及び中学校第二期工事竣工式

【写真㊦—金木高校開校式場】

思い出を語る
福士松葉

『絵』は誰るのも描くのもとても好きです。小学校の一年生ころから教科書やノート等ところ構わず描いては先生や両親におこられたものでした。

…今描いていますか…って？

全然やつてないと申した方がよいでしょう。いやでやめたのではありませんがおつくうなのでしようね…それでも絵のお友達でもあれば刺激されて続けていたかも知りません。戦争も主なる原因です。なんと申しましても女だから家事に追われますし、それに目的がないから…それでもスケツチ位はやつています。これからですか？暇があつてもなくてもやつてみたいと思つています。向上したいという意欲…それはもちろんあります今までの不足を補うつもりで基礎から始めるつもりです。我流ばかりでやつて参りましたから……

『日本画』をやるようになりましたのは女学校卒業まさわ手芸の谷山先生にすすめられ『線描き』と『胡粉の使い方』を教わつてからで、卒業後二、三年は、裏打画仙紙に水彩絵具と胡粉で描き、第二回東奥展（昭和七年）に出品入選した『遊女』がそのころのものです。

絹地に描いたのは第三回の東奥展に出品した『落葉』が初めてで、これも東奥展開催直前に美容師の栄利さんの御紹介でそのころ『ねりや』に授産されていられた『玉穂』という画家さんに一幅分の絹地の下拵えをして戴き、その描き方もたつた一日だけきいて描いたものでした。

入選、特選は発表される前に予期していましたかつて？どれも予想からはずれたものばかりでした。

私の描いた『絵』というのはこのことでもお解りの事と思います。

……自分で描いた絵で一番好きなもの？満足しているということと意味は違いますけれど今は手許になく弘前の『白藤』の酒屋さんにあります『えりあし』と『ほたる』の二点です。

金木の文化活動が下火になつた理由？……さあそれは……先に立つ方がないと申しますより引こんでしまつているのではないでしょうか？町の方については全く知りませんけれどそろそろ中年のしつかりした方に出て戴きたいものです、男ばかりでなく女の方にも…

註＝以上は福士松葉さんとの談話の一部ですが女史の日本画は東奥日報元旦号に勅題として発表されたこともあり、金木町が生んだ只一人の女流画家でしよう。（談）

『遊女』昭和七年第二回東奥展に出品入選
『落葉』昭和八年第三回東奥展に出品入選
『えりあし』昭和十一年第六回東奥展に出品特選
『落花』昭和十二年第七回東奥展に出品特選

勅題
『田家の雪』昭和十二年東奥日報社の依頼による
『落花』『秋草』共に『落後』昭和十二年第六回青鸞
『落葉』『秋草』共に『遊女』昭和十二年第六回青鸞
【写真…勅題として東奥日報元旦号に掲載された『田家の雪』】

新らしき『金木文化』を
一戸馬寒

『金木文化会』の生れたのは終戦の年が明けた昭和二十一年の早春であつた。戦争が終つてホツとした若い人たちは食糧の不足、円の切り換え、その他色々な戦後の憂鬱な事象をよそに、毎晩のように集つて文芸部、音楽部、その他種々な部門にわたり活動を始めた、その後全国的に流行した『歌謡コンクール』をこの地方で最初にはじめたのも『金木文化会』であつた。『リンゴの歌』や『青春日記』『ラ・スパニヨラ』やら『シューベルトのセレナーデ』など賑やかなものであつた。私のレコードコレクションの中からスキーパの『サンタ・ルチヤ』を引張り出して練習し見事に原語のままでこの歌を歌いまくつた青年もあつた。演劇の好きな人たちの菊池寛の『屋上の犯人』などをプリントにして熱心に練習した。

音楽の正統派と、歌謡曲派とが口角泡を飛ばして『金木文化』のあり方について議論を闘わしたこともあつた。演説嫌いな太宰治を無理矢理に引つ張り出して金木の『若い人たち』の前で一席話をして貰つたのも懐しい思い出である。その時太宰治はイソップの『風と太陽』の話を例にして『文化とは優しさであり、お互いの気持がわかるということであり、愛情であり、太陽である』という様な話をした。文化運動そのものについて太宰治はむしろ消極的であつた。全く文化は人類の長い歴史において自ら成るべき果実であり、殊更に『運動』などを必要としないものかも知れないが、私はまた『眞理は絶えず繰返されなければならない、誤謬もまた絶えずわれ等の周囲に繰返されるが故に』というゲエテの言葉も眞実であると考えていた。

尤も太宰治もその後度々会合に出席してくれ『冬の花火』『春の枯葉』などほ自作朗読もしてくれた太宰治が亡くなり、会の設立者であつた仙場青雨君も不幸にして夫折いつの間にか『金木文化会』は有名な無実ものとなつてしまつたが、私は『金木文化会』は衰微しても、『金木文化』そのものは当時に比べて大いに興隆しつつあることを信じている。『金木文化会』は『金木文化』のために正しく『一粒の麦』であつた。

それは数多くの、新しき友情と憧憬との母胎であつた。当時の若い会員たちはその後生長して、或は世俗の塵化の中に埋没しているかも知れない。けれども『金木文化会』の塞を通して、文化の箇口から解放されて一脉の新風を吸いこんだ当時の爽かさは会員たちの胸中のどこかに残つていることと思う。

神なせる　御倉のもすそ
緑しく　芦野ケ原は
名に負いて　林明るし
咲き香れ　文化の花よ
いざや　保たしめ
若きはこりを

これは会の設立者今は亡き仙場青雨君の原稿に現金木中学校教頭外崎美智雄先生の加筆してつくつた『金木文化会の歌』の一節である

この度町内各種団体の美しい協力による『秋の祭り』が行われるに際し新しき『金木文化』の生長を心から待望してやまない。

スポーツ（十月）

相撲
十月三日（青実高校土俵、全日本青年相撲大会県予選）
個人決勝リーグ戦
①前田　光正（金木）　全勝
②中村　（東郡）　三勝二敗
③吉田　（青森）　三勝二敗
▲郡下中学校秋季体育大会の成績はつぎの通り（十月十九—二十日　芦野グランド）

排球
女子　八月の大会では五中と接戦したが惜敗、今回は大差をもつて五中を破る。攻撃正確が勝因
①金木②五所川原
男子
①長橋②松島③金木、三好

卓球
女子団体
①五所川原②金木
二位ながら一位との実力の差が大きい

野球
八月は3対2で惜敗、今回も2対0で敗る。守備は見事であつたが打撃不振が敗因
①五所川原②金木

書店から見た読書の傾向

なんといつても『流行』という評判が売行を決めます。二十三年から昨年までの売れ行きを一〇〇とすれば大体次の通りです。

▼雑誌

区分	二十四年	二十五年
映画雑誌	一〇〇	九五
婦人〃〃	一〇〇	三〇
少年〃〃	三〇	一四〇
少女〃〃	三〇	一四〇
評論〃〃	一〇〇	九〇
大衆〃〃	一四〇	一三〇

▼書籍

大衆小説	八〇	七〇
文学もの	一三〇	一二〇
戦記もの	一八〇	一六〇
翻訳もの	一四〇	一二〇
政治関係	一八〇	一六〇
経済〃〃	一三〇	一〇〇
農業関係	一四〇	一二〇
文庫もの	一三〇	一四〇
少年もの	一三〇	一六〇
少女もの	一三〇	一六〇
倫理哲学	一三〇	一三〇

註　数字の多少は売行きの部数には関係ありませんから誤解のないよう

▼専門書
農家の多い町だけに農業関係のものがよく売れる。
倫理、哲学または法令等は若干出ているけれどこれはほとんど特定の人のみが買つてゆきます。政治経済関係は全くでません。
▼昭和二十六年度の売行きによる御合はつぎの通りです。

雑誌
婦人雑誌二〇%、少年少女雑誌二〇%、映画雑誌一八%、大衆雑誌一八%、評論雑誌四%、その他三〇%

書籍
文庫本三〇%、受験または中、高校参考書二〇%、少年もの一二%、文学一〇%、戦記もの八%、大衆小説五%、農業五%、その他一〇%

映画及び其の他の興行について
金木劇場

○映画
1、外国映画を観る人が多くなつた。但し本町内の人が大部分である。
2、日本映画で一般に喜ばれるものは①現代もの②時代もの③その他の順になつているが、本町内の人は『よい映画』を選んでみるようになつた。
○その他の興行ものの
『芝居』『民謡』等はなんと申しても年寄り連中が多い。
○最近は観客の要求が次第に洗練された高度なものになつてきていることは否定出来ません。観客の半分は本町内で他の半分は近辺の人と分けることが出来ます（談）

金木町のダンス

敗戦とともに極度に流行したダンスも昭和廿二年金木公会堂で第一回の講習会を皮切りに二十三年には新当町にホールが出来たことが私の頭の中から思い出されます。その後二十五年春ホールが解散し同年十一月十五日私が開館したが当時はダンスに対する警戒心でも本当のダンスを理解した人々でもなく、多くは参らしさだけであつたと思われます。

十一月から明けて三月頃までは毎日百人近い人々が踊つておりました。その後、今日に至るまでは人出も思わしくなく、祝日、土、日曜だけ行つております。もち論これが当然であり、このようになるべきがむしろ今後に対してよい影響だとも考えられます。

最近は踊も日々進歩しており、また音楽もたんだん高級なのを選ぶようになり、他の町の方々が来ていうのには『金木の人々は非常に上手だ』ということ、もう一つは『金木の踊りはあまり固苦しい』ということであります。この二つだけは何時も誇りとしております

（筆者ダンス・スタジオ経営者—佐藤寿峰）

校内における文化活動（その1）

（川倉小学校の巻）

文化の日を記念して町内各学校の校内文化活動を学校だよりとして掲載することにした。皆さんの御愛読と御批判を乞う。

学校だより

いすれの学校でも児童生徒の実態と地域社会の要求、時代の流れにもとずいて子供達をどのように成長させるかというその学校特有の教育の目標をたてている。当校でも十三カ条程考えているが、その中の一つに、子供達が自己を深く凝視して表現し、発表能力を高めることをうたっている。都市の子供達にくらべて私達農村の児童は知的にも遅れ勝ちであり、自己表現ということについても積極性に乏しい。これらの原因の一つには農村の子供達は意思表示をする機会にめぐまれていないことがあげられるが、この観点から校内における文化活動については、つとめて多くの経験と機会とを児童に与えたいと考えている。以下これぞと取りたてていう程のこともないがその概略についてのべてみよう

（1）図書館の利用

独立図書館をもっている学校は県下にその数が非常にすくない。当校の図書館は町の後援と全く川倉学区民の協力の賜ものとしてできあがったものだが、児童の読書生活を通して、どの程度までこの熱誠にこたえることができるかという直接私達の読書指導の問題に及ぶのだが、ともあれ十分の休み時間でもむさぼり読んでいる児童の姿にふれるたびに、自発的な学習の場としての図書館を持っている川倉の子供達は本当に幸福だと切に思う。中には備えつけの図書はほとんど読み尽している子供もいるが、今後とも多くの図書資料を備えて全般的に児童の知性をのばしたい。

（2）クラブ活動

組織をもちながら児童の個性をのばしていくために、新聞、ローマ字、観察、裁縫、舞踊、習字、図画、珠算のクラブ組織をもって、週二時間で研究を進めている。学校新聞『かわぐら』は西洋紙二頁のガリ版刷りで第四号編集中、すべて児童の手によってなされているが、習字は最近から北門書道を中心として小さな歩みを続けている。各種展覧会への積極的な応募から、習字、図書、作文、舞踊など全般的に創作意欲がたかめられている点がささやかなクラブ活動ではあるがうれしい点だ。

（3）発表会

毎週土曜日の一時限を児童職員の発表会の日ときめている。子供達にとって何んといっても一番楽しみなのはこの日であろう。

一、三、五年二、四、六年と二班にわかれて隔週毎に行われるのだが、作文、朗読、唱歌、お話、観察記録、遊戯、劇など学習されたすべてのものが色々な角度からその子供なりに表現される。発表会記録簿の或る日の一頁を拾つてみると。

◎一年　工藤チエ外八名
唱歌『海』と朗読
入学後はじめの出場でその成長ぶりがうれしい。口を大きく開いて読むように更に指導したい。

◎三年　中谷勤外五名
劇『馬』
社会科の単元『やくに立つ馬と牛』の劇化、主人の役を演じた児の豊かな表情がすばらしくマントに新聞紙を利用して即製の『馬』もおもしろい。女の子のせりふが朗読に近かったので指導したい。

◎五年　工藤源次郎、中谷幸江子
作文『先生への手紙、遠足』
作文の朗読だがその場面に応じて音楽、笛などをマイクを通して用いた点が効果的だった。以上のようなものだが児童の楽しみは児童同志の発表に加えて今一つ教師からのおみやげ話があることだ。殊に伊藤利文先生の登だんとなると子供達はとび上がらんばかりによろこぶのだが、こうした明るいなごやかなふんいきにつつまれて学習への一日のスタートがきられていく。それにもましてうれしいことは、この春購求した懸案のマイクを利用して行つていることから報道機関の持つ役割をその学年の発達段階に応じてとらえていることで教育における施設、設備の効果が端的にあらわれている点である。

（4）劇化ということ

私達は学習の総合体として劇による表現を特に強調している。日ごろの学習や発表会のいとなみが、年度末の学芸会を頂点としてしめくくられるが、劇ほどあらゆる要素にわたつて子供達をいきいきさせる活動はあるまい。

× ×

そのほか修学旅行、東奥展見学、文化の日、クリスマス、創作展、映画指導などの行事面における指導と効果は紙面の都合で省略するが、豊かな情操陶冶は施設、設備の充実と共に、まず児童に表現の機会を多く与えるというこの出発点からはじめなければならない。

「おがへんき」

☆文化とはドイツ語のカルチュアの訳語であつて、人力によって自然を或る目的、理想に向わせるものの意味になる。もつと詳しくいえば人力の附加されることによつて自然に或る価値をつけることになるから『価値生活』の意味にもなるという。

☆金木は『文化の遅れた町』または『時代遅れの町』だといわれているということだ。換言すれば金木の人々は『金木の町』というものに『価値をつける』ということに極めて無関心であるかまたは『価値づける方法』を他から教えてもらわねば何も出来ないということになりはしないだろうか？

☆最近あまり耳にしなくなつたけれど『文化生活』という言葉が随分といわれたものだ。だがその『文化生活』というものは随分とお金がかかるということで貧乏ものにはとても手の届かないものということになつている。

☆『文明』という言葉があるけれど普通一般には『文明』という言葉を物質的なものに解し『文化』は精神的の意味にとつているようだけれど文明、文化という語にはこうした意味がある筈のものではなく『文化』と『理想生活』の意に解し『文明』はむしろ『自然生活』といった方がよいといつている人もあるが『理想生活』『自然生活』いずれにせよ我々が『生きとし生きる』がためにはお金が必要なことはいうまでもないことである。

金木町の文化活動機関の殆んどが休止状態にあるというけれどその原因は『まんが』のように第一に指揮者の多頭成利氏の手腕のないのと、算盤式ピアノの演奏者が下手だし、そのピアニストがなかなか見つからぬとかのこと。

☆町税が納まらず『町財政』が危機に陥入つていることは皆様御存知の通り皆が皆とは申さぬけれど納めない方達にその理由を聞けば申し合わせたように『町財政が不明朗であるから』とか『役場では借りた金を払つてくれないから納めないのだ』という、また現町長が立候補した時に『呑まれてしまうから納めるな』といつたという方達は『町の人』でないということが原因しているとか。

☆それでは『不明朗である』ということは一体何をさしているのだろうか？町財政に関しては『行政監査委員』というものがあつて月に一度は必らず調査しその結果も『金木だより』でその都度公表しているし、町議会議員もおれば各部門毎に常任委員や委員があるはずまた役場には諸帳簿があり、諸係がおり、課長、助役、それに町長と別な立場に置かれている収入役というものがある筈だ。不明朗な財政が行われる時…それは町の行政執行機関の関係構成員全員が『グル』になつたということになるのではなかろうか？

☆また『払つてくれないから納めない』ということは何を意味しているのだろうか？

そして『税金』と『貸借』との区別がつかないのではなかろうか？『権利と義務』これは考えようによつては『鶏と卵』の関係かも知れないが『税金』と『貸借』と混同して貸つては甚だよろしくないと思う

☆『道路を広くして貸いたい』『公会堂や公民館がほしい』とかこのことには『文化の町』といわれるように早くなりたいし、また皆が考えていることであり、双手をあげて『賛成』したい。だがその前に一日も早く税金を納め、そして要らぬ利子のついた『お金』を一銭も早く返済出来るようにして戴きたいものである。そして一日も早くわれわれ町民の一切の活動の自由なる発展によりわれわれの町に対してより以上の価値を与え、文化の町金木といわれるようにしたいものである。

（二一・三・S・K生）

保育所だより

口児童の平均体重

組別	九月	十月
さくら	一八、六瓩	一八、二瓩
うめ	一六、四	一七、七
ちゆうりつぷ	一六、〇	一七、〇
平均	一七、〇	一七、六

口第一回西北地区幼児図画展覧会入選者次の通り（於五所川原保育所）

特選　山田　勝明
佳作　小田桐長子

基本選挙人名簿縦覧について

昭和二十七年九月十五日現在で調製した基本選挙人名簿を左記の通り縦覧に供するから告知する。

一、名簿縦覧期間　自昭和二十七年十一月五日　至同年十一月十九日十五日間
一、異議申立期間　名簿縦覧期間中
一、縦覧の場所　金木町役場
一、縦覧時間　毎日　自午前九時　至午後四時
一、異議申立の決定　申立のあつた日から二十日以内
一、名簿の確定　昭和二十七年十二月二十日

昭和二十七年十一月一日

金木町選挙管理委員会
委員長　白川常英

縣営金木営農実習場の歩み

場長　鈴木次也

二十年この方営農実習場は金木町の皆さん方から大変親しまれて参りましたことは、われわれ職員実習生一同感謝しているところであります。

農場は御承知の通り昭和九年当時の政府の声がかりもあり、地元の方々の御後援によって農村の経済更生推進の一環としての農村の中堅人物養成機関として設置を見、以来数多くの修了生を農村に送り出しました。満州の外、開拓者の訓練、増産推進隊、少年農兵隊と軍国調の訓練が数多く繰り広げ緊期間習におられましたし、また

いては農民のみならず、一般指導者、教育者、その他各階層に亘つてこの門をくぐられた方は万を数えることであります。

従つてこれ等の参会者によつて修錬農場の名において金木町の名とともに県下の隅々まで伝えられました。

先日も上北郡の片田舎で農家のおばあさんがこの農場を、そして金木町を知つていたのには驚いた次第でした。このように戦時中の農場訓練を通じて金木町の名は一層有名になつたことも確かに一つの事実でありましよう。また知事津島さんの出身地としてはもち論のことですが、さてそれ以外に金木町が対外的に特にとりたてて一般

に知られるような特殊性があつたでしょうか。事実北郡の北部農村の中心商業都市で木材の集散地という以外には取りあげる産業も資源も豊かでない平凡な町であるということが出来ましよう。私は不幸にして過去の史実は十分研究していませんので、かかる暴言もいえるのかも知れません。

兎に角この農場に二十年この方入り代り、立ち代り農村各地から人の出入が多かつたことは皆さん御承知のことです。その農場も終戦後は指導方針の不明瞭から入場者も減り農場もさびれ、教育面も不振な時代がありましたが、昭和二十三年からは修錬農場から営農実習場と看板を掛け直し、新たな発足を見、施設を充実しましてからは県下各地よりの入場希望者も増加し応募者二倍となり、農事相談のための来訪者や一般見学者も多くなり本年は四月以来既に五千名を超える現況です。ただ残念に思われることは地元金木町の農家の方が存外にお出でにならないことです。

それには理由もあることでしよう。『聲台下暗し』ということもあり地元の方々はあの修錬農場当時の何等見るべき施設もなくただ勤労教育に終始した当時の姿を想い、現在もなお同じことをやつているのだ。新時代の農業経営に、技術に相談の価値なしとお考えになつてのことでしようか。私共にも反省すべき点も大いにありましよう。そこで私は最近の農場の姿なり営農方針或は教育の方向などをお話し申し上げ地元施設として皆さんより大いに活用して戴きたい。また一層御援助も戴きたいと思う次第です。

いい教育目標は長期実習生、短期講習生をして農地改革後の農業経営の考え方、農村生活のあり方について実習し、家生活自主的クラブ活動を通じて体得せしめ、農村の指導的地位に立ち得る自営農民の養成を期しており、一方農場自体は現在及び将来農村が具備すべきあらゆる施設及び研究を進め、県下農村のモデル農場としてはたまた種苗、種畜の配付技術相談、実施講習等のサービス農場としての使命を果しつつあります。

現在の営農は水田七町、畑一三町果樹一町に馬六、牛七、種鶏四〇〇、種豚一〇の他緬羊、山羊、あひる、七面鳥、兎等を配した有畜農業を営み、実習生五〇名と職員で経営に当つています。戦後の施設を紹介すれば、採種圃、展示圃の経営、水田耕作の実施、果樹園の苗生産培及び動力ポンプによる薬剤散布温床育苗、電熱催芽、動力耕耘機各種畜力作業機、一万卵入孵卵機、果樹園の種鶏放飼育成サイロ、乳牛の人工授精、牛乳の処理場、豚肉加工場等一通り揃えましたので皆さんの御視察なり農事御相談にお出掛け下さるのをお待ちしている次第です。

又来春よりは女子部も復活して頂くように知事さんにもお願いし農村の生活改善の先駆者を養成したい念願で宿舎の整備も完了を見ました。

なお当場内には金木家畜保健衛生所、農業改良普及事務所を併置してありますので、サービスも十分出来る手配になつていますし県下各試験研究機関とも連絡し作物の栽培に家畜の飼養にも一層改善を加え地方農業経営改善のための役割を果たしたい念願です。

金木町は商業の町であると共に農村で町民の過半数が農家であることからも明らかです。従つて町の発展は農業の進歩、農家の経済の向上がなければ町の発展は期待出来ぬ事は万人の認めるところでしよう。町の文化の向上発展もその辺に策がある筈です。この度は金木高等学校も独立し、中学校、小学校も増築され地方まれに見る立派な校舎が完成し金木の文化を正に象徴するものでありまして町の将来のため大いに祝福したいと思います。

私共の農場も町の農村文化の面に特に努力いたしたく、内容の充実に努力しておりますことを御認識戴きたいと共に金木の営農実習場が、且つ金木町が新しい農村文化の発祥の地たり、またたらしむるよう町民の皆さんも相互に援助協力の必要を文化の日に当り提言するものであります。

選挙費用収支報告書

金木町教育委員会委員

氏名	収入の部 区分	収入の部 金又は見積額	収入の部 種別	支出の部 区分	支出の部 金又は見積額	支出の部 支出目的	支出の部 支出を受けた人（職業）	残額	摘要	備考
福士勇	9.5	250円	現金		円				本人選挙費用	寄附その他の収入なし
	9.27			現金	130	ポスター代	北川亥七（商）		〃	
	10.1			〃	120	紙代	芳賀忠一（商）			
	計	250			250			0		
沢悦	9.28	300	現金						本人選挙費用	同上
	〃			現金	300	ビラ代	五所川原泉印刷所			
田造	計									
小倹	9.25	100	現金						本人選挙費用	同上
山	9.26			現金	80	紙代	沢田繁太郎（商）	20		
内二	計	100			80					
新千代	9.27	280	現金						本人選挙費用	同上
	〃			現金	150	紙代	沢田繁太郎（商）			
	10.3			〃	130	茶代	羽賀忠一（〃）		〃	
岡二	計	280			280			0		
荒豊	9.20	1,200	現金						本人選挙費用	同上 出納責任者 荒関浮一
	9.27			現金	1,200	ビラ代	五所川原陸奥紙店			
奥七	計	1,200			1,200					
泉征太郎	9.21	319	現金						父より贈与	寄附その他の収入なし
	9.25			現金	180	立看板代				
	〃			〃	49	ビラ紙				
	〃			〃	90	茶代				
	計	319			319			0		